

## 牛乳乳製品市場はかろうじて均衡、今後の生産と需要の動向に注目

### 欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2023年3月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会3月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(\*1)では、EUの近況として、①生乳生産量は1月まで5ヶ月連続で前年同月を上回ったこと、②庭先(牧場出荷)乳価は2022年12月にピークを迎えて以降は下向きであること、③平均乳製品価格は低下しているものの、依然として高水準にあること、④消費者は食品インフレの影響で値段が低めの特売品などを選んでいることなどを報告している。また、世界の近況として、主要乳製品輸出国・地域では、2022年9月以降は生乳生産が回復していることも指摘している。EUでは酪農経営の収益性の改善が直近でみられており、マクロ経済の見通しは改善しているが、2月から3月にかけて微妙な需給バランスの上であり脆弱な牛乳乳製品市場については、今後、生乳生産の伸びが引き続き緩やかで需要に回復力があれば、現状のバランスが維持され安定してくるだろうとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第45回会合は、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家の参加を得て、ビデオ会議で2023年3月28日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会:生産者を代表)
- ECVC(ビア・カンペシーナの欧州組織)
- EDA(欧州乳業協会:乳業者を代表)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合:乳製品貿易を代表)
- Eurocommerce(欧州商工会:小売業を代表)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

#### EUの生乳生産量は1月まで5ヶ月連続で前年を上回る

EUの牛の生乳集荷量は、増加を続けている。2023年1月の生産量は、前年比1%増加した(5ヶ月連続)。ドイツ(+3.6%)、オランダ(+4.7%)、ベルギー(+4.7%)、ポーランド

(+1.6%)など、11か国の加盟国が生乳出荷量の増加を報告した。フランス(-1.4%)、イタリア(-3%)、スペイン(-1.4%)、アイルランド(-2.4%)では集荷量が減少している。

2023年1月、EUの全粉乳と濃縮乳の生産量は、それぞれ-8.4%と-4.7%の減少であった。その他の乳製品の生産量は、脱脂粉乳(+6%)、バター(+6.4%)、チーズ(+0.9%)、発酵乳(+1.1%)、クリーム(+3.1%)、飲用乳(+0.8%)のように増加した。

#### EUの庭先乳価は2022年12月以降下落

2022年12月に記録的な水準に達した後、EUの平均庭先(牧場出荷)乳価の調整が行われている。2023年1月のEUの平均生乳価格は、3.5%下落(2022年12月比)の1キロ当たり56.3ユーロセントで、依然として近年の水準を大きく上回っている(2022年1月比+35%、5年平均比+57%)。2023年2月の加盟国の予測では、1キロ当たり54.7ユーロセントまでさらに低下するとしている。生乳価格

は、マルタを除くすべての加盟国で1年前より上昇した。1月の生乳価格は12月に対して21の加盟国で下落し、ポーランド(-13.1%)、リトアニア(-12.9%)、ラトビア(-11.3%)の順で最も低下したが、ハンガリー(+3.6%)、ギリシャ(+1.5%)、キプロス(+1.1%)では上昇したと報告されている。

1月に集荷された生乳の3.7%が有機であった(22か国の加盟国の報告による)。2022年下半期に価格プレミアムは大幅に下落した(1月の価格差は1キロ当たり3.8ユーロセント)。3か国の加盟国(スロバキア、チェコ、ルーマニア)では、有機生乳の価格は一般の生乳よりも低かった。EUの有機生乳全体の約81%が、4か国の加盟国(ドイツ、フランス、デンマーク、オーストリア)で生産されている。

飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、過去4ヶ月で軟化した。依然として高い水準にある(2020年およびそれ以前の年よりも約75%高い)。

### EUの平均乳製品価格は低下したが、依然として高水準

EUの平均乳製品価格は低下したが、長期的な視点で見るとまだ高水準である。

脱脂粉乳価格は年初から12.2%低下し、前年比では34.7%下落している。

バター価格は12%下落し、現在、前年比-21.5%となっている。

全脂粉乳価格は2023年初めから13.5%低下し、2022年3月と比較して-27.2%となっている。

ホエイパウダー価格は2023年初めから13.9%減少し、現在は1年前と比較して42.7%低い。

チーズ価格も同様に低下しているが、エダム(-0.7%)を除き、依然として1年前より高い。

EUは、オセアニアや米国と比較して、脱脂粉乳とチェダーの価格競争力が最も低い輸出国である。オセアニアはバターと全粉乳で、米国は脱脂粉乳とチェダーで最も価格競争力がある。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品量に基づくEU在庫レベルの評価では、脱脂粉乳在庫量は1年前より増えているが、いまだ正常な水準と考えられる(生産量の増加により約12万トン)。バター在庫量は2022年第1四半期には非常に少なく、生産ピークの季節を経て夏以降減少したため、約15万トンの水準で安定している。2022年夏以降、チーズ在庫量は5万トン減少して低い水準(およそ25万トン)になったが、需要の鈍化により特定のチーズの入手性は高まった。チーズの国内需要は依然として堅調であるが、消費者はより安価なタイプを購入している。

### 世界の主要輸出国・地域の生乳生産量が2022年9月以降は増加

主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド、アルゼンチン、ウルグアイ)の2022年上半期の生乳集荷量の減少により、世界全体の生乳出荷量は0.5%減少した。2022年9月以降では、特にEUと米国で生産が活発化している。

世界の乳製品輸出货量(生乳換算量)は、昨年、主に中国の全粉乳輸入の大幅な減少により2.2%減少した。その他の主要市場(東南アジア、MENA(中東・北アフリカ地域の国々)、米州各国)の乳製品需要は堅調であった。中国、メキシコ、インドネシア、アルジェリア、フィリピンが、昨年輸入市場の上位5位であった。EUの全体的な輸出は依然として弱い。脱脂粉乳とバターは好調である。2022年の

EU の輸出先の上位 5 位は、英国、中国、米国、インドネシア、アルジェリアであった(シェア 40%)。

### EU の消費者は値段が低めの選択肢を選ぶ

小売面では、消費者マインドは幾分安定しているが、食品インフレが乳製品の需要に影響を与えている。消費者は概して、特売の商品を購入し、値段が低めの選択肢やプライベートブランドに動いており、有機食品への関心は低い。

### 欧州委員会の最新データは酪農場の収益改善を示す

欧州委員会は、生乳生産を専業とする酪農場の純収入に関する 2022 年の最新データを発表し、それによると前年と比較して顕著な増加を示している。エネルギー、ガス、肥料、飼料など、いくつかの主要な投入価格には下落傾向が見られる。通常的气象条件であることを仮定すると、乳用牛頭数の減少が乳量の増加を上回り、2023 年の EU の生乳生産量はわずかに減少する可能性がある。EU の輸出は、中国の需要の回復に伴い、2023 年に改善するかもしれない。

マクロ経済の見通しは改善しているが、市場は神経質になっており、なかなか方向性が定まらない状況にある。牛乳乳製品市場は、2 月から 3 月にかけて、微妙な需給バランスの上にある脆弱であるが、今後も生乳生産の伸びが引き続き緩やかで、需要に回復力があれば、現状のバランスが維持され安定してくるだろう。

### 参考資料:

1) <https://agriculture.ec.europa.eu/system/>

[files/2023-03/mmo-report-2023-03-28\\_en.pdf](https://ec.europa.eu/economy_finance/files/2023-03/mmo-report-2023-03-28_en.pdf) MMO economic board meeting report – 28 March 2023 . European Commission.

(資料閲覧:2023 年 4 月 3 日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新光一郎)